

OUR HOUSE

西野 心和（中学1年）

『Welcome Coco!』

グアム国際空港に着いて、最初に Mari が持つウエルカムボードと Mari の笑顔が目に入り、一気に気持ちが不安から期待に変わりました。お母さんは手作りのティーリーフのレイを首にかけてくれ、家族に抱きしめられ、暖かい気持ちでいっぱいになりました。こうして、私の人生で一番濃い一週間が始まりました。

グアムに着いた最初は緊張しながらも、互いの好きなことや家族について話しました。電話ではほとんど話せなかったのに、実際に会って話すと表情やジェスチャーで伝わるのがうれしく、とにかく一緒に過ごす時間を楽しみました。特に二日目のフリーデーでは、シュノーケルをしたり、ドライブしているうちに、かなり仲良くなることができました。

そして、グアムと私をつないでくれたのがチャモ口語です。Mari のお母さんはチャモ口語を教える学校の先生でした。家族はチャモ口語を話すことを大切にしており、私にもたくさんのチャモ口語を教えてくださいました。私が勇気を出して、覚えてたのチャモ口語を使うと、会話がそこから広がっていき、たくさんのことを教えてもらいました。毎日、地図に行ったところをチャモ口語で書いてくれ、ハイキングやチャモロヴィレッジでグアムの歴史を体験することもできました。柏生とグアム生のために仕事を休んでバスを出してくれるなど、Mari の両親はいつも忙しそうでした。

私たちのためにここまでしてくれる最高の家族の家に泊まるのが私で大丈夫なのかと思ってしまったのですが、いつも『This is our house! Coco's house!』『You are my daughter』と言ってくれるのが、本当に嬉しかったです。

そんな最高の家族とも、あっという間にお別れの日が来てしまいました。お父さんがお別れまでの時間を度々カウントダウンすると、次第に寂しくなりました。最後に伝えたいことはたくさんあったのに、言葉で表現できなかったことが悔しかったです。空港で家族に抱きしめられたときは、同じハグでも六日前とは違う暖かさを感じました。

今回の経験で、今までそこまで知らなかったグアムが身近で大好きなものになりました。もっともっと話せるようになって、また Mari と家族に会いたいと強く思いました。今回はすてきな経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

カウンターパートの Mari と

